

京都精華大学 広報誌

木野通信

KINO PRESS.
KYOTO SEIKA UNIVERSITY

issue 66

INTERVIEW

京都精華大学が ベストセラー小説の舞台に。 七月隆文の世界。

特集

社会突破力。

ライフネット生命・出口会長が
卒業生の悩みを一刀両断!

田中圭一が考える、
社会とのつきあい方。

2017年、京都精華大学はもっと社会突破力のある大学に。

NEWS&Topics

岡本清一記念講座 第8回 西谷 修「戦争化する世界と日本のゆくえ」



CONTENTS

巻頭インタビュー

- 4 京都精華大学がベストセラー小説の舞台に。
七月隆文の世界。

特集

社会突破力。

- 8 ライフネット生命・出口会長が
卒業生の悩みを一刀両断！
- 12 田中圭一が考える、
社会とのつきあい方。
- 15 "社会突破力"のためのリコメンド9
- 16 2017年、京都精華大学は
もっと社会突破力のある大学に。

NEWS & Topics

- 18 大学ニュース
- 20 2015年度卒業・修了制作展とセイカウィーク2016を開催
- 21 イベント紹介 岡本清一記念講座 第8回
西谷 修「戦争化する世界と日本のゆくえ」

精華生たちの今

- 22 活躍する卒業生
- 23 歩みはじめた在学生

来る「変革」でめざすもの

学長 竹宮恵子

(マンガ学部ストーリーマンガコース教員／マンガ家)



学長就任後、3度目の春が訪れました。この2年間、教職員のみなさんのお力を借りながら制度の見直しなど細かな改革に取り組んでまいりましたが、ここに来てようやく、京都精華大学における「変革」の全体像をお示しできることとなりました。

2017年度より本学では、従来の専門性を主軸とした学びに加えて、全学部を横断する「共通教養科目」と「副専攻科目」を設置し、幅広い知識・教養、経験を高める機会を提供します。そのねらいは、ずばり「社会展開力」の強化。社会展開力とは、芸術や音楽、文学といった各自の専門性を、社会でどう生かすか、自ら考え、切り開いていく力を指します。ビジネスや福祉、環境などの社会課題を取り扱う全学共通の授業を通じて、これまで交流のなかった他学部の学生がともに学び、触れ合うことで、個々の視野を広げ、さまざまな挑戦を繰り広げてくれることを期待しています。

また、私が教員としてかかわっているマンガ学部においては、コース再編により「新世代マンガコース」が新設されます。このコースは、マンガを描くことにとどまらず、マンガをプロデュースしたり、今日のデジタル環境に適した発信力などを身に付け、新しいマンガ表現を開拓できる人材を育てることを目的とした、マンガの社会展開力に特化したコースといえるでしょう。たとえば、どんな物語を誰に向けて、どのように発信するのかを実践的に学び、マンガ業界だけに頼らずに、自分自身の手で読者をリサーチし、作品を発信できるマネジメント能力やマーケティング能力を養います。

こうした既存の学部・学科の枠組みを越えた自由度の高い学びを通じて、学生間の交流が盛んになり、キャンパスのあちこちで「おもしろい何か」が日々行われている、そんな活気に満ちあふれた大学にしていきたいと思っています。その活気こそが、芸術や文化の力で社会を盛り上げる原動力となるはずです。

七月隆文

Nanatsuki Takafumi
大阪府生まれ。京都精華大学卒業後、あかほりさとるの主宰するライター事務所に所属し、作家デビュー。ライトノベルを中心にヒット作を多く手がけたのち、2014年、『ぼくは明日、昨日のきみとデートする』（宝島社）で一般文芸デビューを果たす。『ぼく明日』は2015年、京都本大賞を受賞し、2016年、東宝配給で映画化される。主な作品に『君にさよならを言わない』（宝島社文庫）、『ケーキ王子の名推理』（新潮文庫nex）など。ドラマ脚本、マンガ原作なども手がける。



『ぼくは明日、昨日のきみとデートする』
(宝島社文庫)

京都精華大学が ベストセラー小説の舞台に。 七月隆文の世界。

読書レビューサイトの口コミで「泣ける！」と話題を呼び、恋愛小説のおすすめランキングでは、つねに1位をキープ。発行部数80万部突破、2015年には京都本大賞を受賞し、映画化も決定した大人気小説『ぼくは明日、昨日のきみとデートする』。京都精華大学をモデルにした、甘く切なく、少しミステリアスな青春ラブストーリーだ。作者の七月隆文さんは、京都精華大学美術学部マンガ専門分野の出身。作品の随所に、七月さんの大学時代のエピソードが盛り込まれており、京都精華大学で時間を過ごした人であれば、ありありと感じられる場面が数多く登場する。その圧倒的な描写力は、大学で絵を学んでいたことも大いに活かされているのだとか。七月さんに話をうかがいました。

マンガ家になりたくて、 美術学部へ入学

『ぼくは明日、昨日のきみとデートする』（以下『ぼく明日』）を読むと、京都の街並みをはじめ、主人公たちの生活ぶりが絵のように浮かびました。

七月 『ぼく明日』は、長らくライトノベルを書いてきた僕が、はじめて一般文芸に挑戦した作品で、僕の大学時代のエピソードをかなりぶち

があつたのでしょうか。

七月 就職活動の時期になって、絵を描く仕事のできる会社に応募したら、ことごとくダメだったんです。次第に追いつめられていった僕は、たまたま、角川書店（現KADOKAWA）が発行していたライトノベル雑誌『ザ・スニーカー』で、あかほりさとるさんのライター事務所が新人を募集しているという記事を見つけました。絵だけでなく、文章の方でもアピールしようと、藁をもつかむ思いで課題の自由作文を書いて送ってみたら、第一次選考通過の返事が来んです。さまざまな企業に就職活動を行ったなか、返事が来たのがそこだけで（笑）。幸い、そこからはとんとん拍子に二次選考、面接にも受かって、東京にある事務所で働くことになりました。

—— 人生の転機ですね。

七月 絵描きになるだけの才能のないお前は、こっち（文筆業）に来なさいという人生の選別がなされたというか（笑）。思うんですが、大学の4年間は、そういう過酷な現実を知る時期のひとつなんじゃないでしょうか。

—— 文筆業にシフトしてからは順調だったのですか？

七月 いやいや、地べたを這いずりまわった時期が長かったですよ。

—— 作家になるためにやったことを教えてください。

—— 七月さんは、大学時代から小説家をめざされていたのでしょうか。

七月 小説と同時にイラストも描きたかったんです。子どものときからマンガを描くのが好きで、よく学校で描いては、友人に見せていました。高校生のとき、進路を決めるにあたって専門学校ではなく、4年制の美術大学で、さらにマンガの勉強をしようと思いい、京都精華大学を受験したんです。当時はマンガ専門分野といえどカートゥーンをメインにしていたので、今こんなにもマンガ学部がすごうらやましいですね。

—— では、大学の4年間、主にマンガを描いていたんですか？

七月 課題をやりつつ、図書館にいつもいて、絵の技術以外の知識も蓄えていました。今ある情報館ができる前の施設にあったAVセンターでドキュメンタリー系の映像などもよく観ていましたよ。いわゆるキャンパスライフを謳歌している人たちが怠惰に見えて、俺はこいつらとは違う、もっと上にいく！と思ってるようなすごくとんがった学生でしたね（笑）。

—— 絵も文も、両方をめざしつつ小説家になったのは、どういった経緯

込みました。小説の主人公が通う木野美大は、精華大がモデルです。ヒロインの愛美以外は僕の友人がモデルです。主人公のアパートも僕の住んでいたアパートで、京阪線を使って大学に通う「京阪組」というグループも、「京阪ファイブ」という戦隊モノみたいな名前の5人組として実在しました。大学時代、どちらかと言えば、こもるタイプだった僕の数少ない友人たちで、今だに毎年正月には関西に帰り、当時の京阪ファイブの連中と会って飲んでいますが、ただ、残念ながら愛美だけはいませんでしたね（笑）。



誰も死なないにもかかわらず、すごく切ない恋愛小説になりそうだと手応えを感じました。どうしても、別れの哀しさを書こうとすると、誰かが病気で死ぬようなパターンになっ

てしまいがちですが、そうでないものを書いてみたら、今までになく苦労しました。自分自身の体験を総動員して書こうと思ったのですが、それをそのまま生々しく書くのではなく、

エンタメに昇華することに手間がかかりました。こうして苦戦しながらようやく書き上げたものの、発売したばかりのときはさっぱり売れなかつたんですよ。

七月 ライトノベルと一般文芸の売れ方の違いを知りました。濃いファンの多いライトノベルは、初速がすごいんです。発売されて数日のうちに売上がドーンと伸びる。

映画公開決定！ 2016年12月より全国東宝系にて上映予定
七月隆文さんのベストセラー恋愛小説『ぼくは明日、昨日のきみとデートする』が実写映画化。2016年12月に公開されます。

七月 活かされました。自分の頭に浮かぶ風景と同じものを、どうしたら読者にそのまま伝えられるかをつねに考えていますが、それができるのは、やっぱり大学まで絵をやっていたからだと思いますね。

七月 『ぼく明日』の装丁家の山田満明さんと話していたら、その方は『いま、会いにゆきます』の装丁も手がけた方で、その小説のなかに出てくる絵は作者が描いたものだとか教えてくれて、「七月さんも描いてみませんか？」と誘ってくれたんです。

七月 福士蒼汰さんや小松菜奈さんなど、素敵な役者さんたちに演技をいただけたことがうれしいです。モデルになった友人たちと盛り上がりましたね。大学時代のことを小説に書いて、モデルとして僕に小説を書かせてくれた友人たちが喜んでくれたことが、一番良かったんです。

七月 実践的なことと言うと、文章のトレーニングとして、集中して既成の作品を写経のように書き写した時期がありました。これは、文章のトレーニングとしてはけっこう王道なものです。絵画もそうですが、どの世界でもやっぱり模写が基本なんですよ。作家をめざしている方には「おお、この文章すげえ！」と好きになったものを書き写すことをおすすめします。

七月 今も否定していることですが、当時の僕には、「ライトノベルは若い時にしか書けないものだ」という思い込みがあったんです。本当はまったくそんなことなく、今は三代、四十代でラノベの最前線に立っている方もたくさんいますが、当時は、年をとったら書けないという強迫観念をもっていたんです。

七月 『ぼく明日』をはじめの一般文芸というのですが、ライトノベルというジャンルを極めていた七月さんが一般文芸に挑んだのはなぜでしょうか。

七月 活かされました。自分の頭に浮かぶ風景と同じものを、どうしたら読者にそのまま伝えられるかをつねに考えていますが、それができるのは、やっぱり大学まで絵をやっていたからだと思いますね。

七月 『ぼく明日』をはじめの一般文芸というのですが、ライトノベルというジャンルを極めていた七月さんが一般文芸に挑んだのはなぜでしょうか。

七月 今も否定していることですが、当時の僕には、「ライトノベルは若い時にしか書けないものだ」という思い込みがあったんです。本当はまったくそんなことなく、今は三代、四十代でラノベの最前線に立っている方もたくさんいますが、当時は、年をとったら書けないという強迫観念をもっていたんです。

Nanatsuki Takafumi Interview

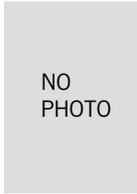
七月隆文さんの人生に影響を与えた作品たち

映画 『バック・トゥ・ザ・フューチャー』 監督:ロバート・ゼメキス
タイムマシンで30年前にタイムスリップしてしまった高校生が、元の世界に戻ろうと大奮闘する映画。夢中になりました。僕が作品のプロットを書くとき、なぜか時間を扱ったものが増えてしまうのは、これの影響なのかもしれません(笑)。

アニメ コードギアスシリーズ 原作:大河内一楼、谷口悟朗
ギアスという特殊能力を持った主人公の戦いを描いた作品で、怒濤の展開が圧巻です。宮崎駿監督や庵野秀明監督のような飛び抜けたひとりの個性による作品ではなく、チームプレイで勝負して、最後はランニングホームランで勝ったみたいなのが、プロフェッショナル集団がつくった一流のエンターテインメントという印象を勝手にもっています。僕の教科書のひとつです。

小説 『アルスラーン戦記』 田中芳樹 角川書店/光文社
中世ベルシャの架空の国パルスの王太子アルスラーンを中心に書かれた壮大な大河ファンタジー。出会いは、中二のころ。「ファイナル・ファンタジー」の天野喜孝さんの装丁画に惹かれて、読みはじめたらすごくおもしろくて、すっかりはまってしまいましたね。ラノベにはまるきっかけの作品です。お会いして、本に書いていただいた田中芳樹先生のサインは宝です。

ゲーム ドラゴンクエストシリーズ スクウェア・エニックス
RPGの傑作であり、僕の原点です。「ドラクエ」をきっかけに、マンガを描いたり、小説を書いたりしはじめました。音楽に興味をもったのもこの作品の影響です。総合芸術というのか、このゲームのなかにはクリエイティブなものすべて詰まっていますよね。シリーズのなかで、一番好きなのは「V」です。親、息子、孫という三代にわたる壮大な話が大好きなんです。



Q1

今している仕事・業種が近い将来になくなりそうです。これからの時代、どのような基準で、仕事を選べばよいのでしょうか？

(27歳男性／人文学部出身)

考えるだけ、時間をもったいないです。20年後の世の中がどうなるかなど、誰にもわかりません。どれだけ偉い人間が、賢い頭で考えても、20年後のニーズを的確に当てることはできません。時代が変われば、社会が抱えている問題もニーズも変わります。いま存在しないような仕事が生まれるのは当然でしょう。そんな心配をするより、いまこの瞬間、自分がワクワクする楽しいこととは何か、それを基準に仕事を選べばいいと思います。2030年までに、日本は800万人以上の労働力が不足するとされています。これは北欧の一国の人口より多い数です。今の仕事がなくなる可能性はありますが、働く意欲さえあれば、最低限ご飯は食べていけます。大事なことは、好きなことを一所懸命やるだけです。



答えてくれた人
ライフネット生命保険株式会社
代表取締役会長兼 CEO

出口治明

Deguchi Haruaki

1948年、三重県生まれ。日本生命保険相互会社に入社後、ロンドン現地法人社長や国際業務部長などを歴任。退職後、2006年に生命保険準備会社を設立、2008年の生命保険業免許取得に伴い、ライフネット生命保険株式会社を創業。2013年6月より代表取締役会長兼CEOを務める傍ら、「働き方」や「お金」に関する著書を多数執筆している。

【出口会長の著書】

『「働き方」の教科書「無敵の50代」になるための仕事と人生の基本』(新潮社)

50歳を「人生の真ん中」と考える出口さんが、20代、30代、40代…それぞれの世代にふさわしい働き方をアドバイス。ご本人いわく「僕の本は眠つぶしに読んでもらったらそれで十分です。古典を読んだほうがいい。そこには人間の営みがすべて書かれています」とのこと。



ビジネス界きっての教養人 ライフネット生命・出口会長が 卒業生の悩みを 一刀両断！

希望に満ちた年代のはずですが、世相を映す卒業生たちの声。いったいどのように、いまの社会に立ち向かっていけばよいのでしょうか？60歳目前に起業し、還暦を過ぎて戦後初の独立系生命保険会社を開業、教養人としても名を馳せる、ライフネット生命保険の出口治明さんに、卒業生の不安や悩みを打ち明けてみました。人生のセンパイ、お手柔らかにお願いします！

Q2

自分の強みや個性を、どうやって見つけたいいのですか？

(30歳女性／芸術学部出身)

自分自身の強みや個性を見つけて、それを活かした仕事をしている人は、ほんの一握りではないでしょうか？僕は歴史オタクですが、人類の歴史を見ると、ほとんどの人が、たまたまとか、なんらかの偶然の出会いがもたで就いた仕事に生涯を捧げています。これからの時間で、自分の強みや個性を見つけれればハッピー。仮に見つけれなくても、あなたは多数のなかにいるのですから、心配する必要はまったくありません。

社会突破力。

特集

卒業生に質問！ 社会に出て、どんなことで悩んでいますか？

将来の人口減少や少子高齢化が明らかになり、右肩上がりの経済成長はもはや過去のものとなった日本社会。精華大を羽ばたいていった卒業生も、時代の激しい荒波に直面しているのではないのでしょうか。卒業生にアンケートをとってみると、働き方、お金のこと、結婚や子育てのあり方など、不安や悩みの声が続々…。率直なところ、精華大で学んだことは役に立っている？ 自戒を込めて特集します、社会突破力。

自分の強みや個性を、
どうやって見つけたら
いいのですか？
(30歳女性／芸術学部出身)

給料が下がる
一方なんです…。
(31歳女性／人文学部出身)

会社が求めていることと、
自分のやりたいことが違う！
(29歳男性／マンガ学部出身)

今している仕事
が近い将来になくなり
そうです。
(27歳男性／人文学部出身)

チームで仕事を進めることの
難しさにぶつかっています…。
(30歳女性／芸術学部出身)

結婚できるのか、
不安をつねに抱えています。
(35歳男性／人文学部出身)

日本の経済難は
いつまで続くのでしょうか？
(26歳男性／人文学部出身)

偏差値の高い人たちに、
どう勝てばいいの？
(31歳男性／人文学部出身)

確定申告や節税…
独立後、手探り状態です。
(27歳女性／マンガ学部出身)

「やっぱり芸大生はねえ」と
偏見をもたれるのですが…。
(24歳女性／芸術学部出身)

最近では理系の評価が高く、
文系出身は肩身が狭いです。
(31歳男性／人文学部出身)

上司に「教養がない」と
叱られます。
(30歳男性／人文学部出身)

日本史や日本文学を学んだが、
ビジネスに役立ちません！
(28歳男性／人文学部出身)

Q9

大学で日本史や日本文学を学んでいましたが、
ビジネスに役立ちません！

(28歳男性／人文学部出身)

日本列島に人類が住みつき、縄文時代がはじまったのが1万4000年～1万5000年前といわれています。その後、1万年ほど縄文時代が続きます。人口も今よりずっと少なく、食料危機や環境破壊の心配もない。長い間、安定した暮らしをしていたのでしょう。今の若い世代の人たちのなかには「生まれたときからずっと不景気だ」「親の世代がうらやましい」ということを嘆く方が多いようです。たしかに戦後の日本の高度成長は、給与は上がる、人口は増える、生活は豊かになる、という時代でした。しかし、敗戦からバブル崩壊までの成長期間は、50年も続いていないのです。1万年も横ばい状態だった時代と、半世紀に満たない右肩上がりの時代。歴史的にみて、どちらが「普通」のことでしょうか？ 高度成長時代の方が、人類史上全体からみるとイレギュラーです。つまり、右肩上がりが正常な状態というのは、ここ数十年間の偏った認識なのです。歴史を振り返るということは、近視眼的になることを防いでくれます。自分の生きたほんの短い人生より、ずっと長い軸で俯瞰してみることができれば「思い込み」から抜け出すことができます。なにより、日本史や文学を学んだことが、おもしろいと思っていたのであれば、それで十分です。**知識はいつ役に立つかわかりません。役に立ったら儲けものぐらいの気持ちでいきましょう。**

Q7

「やっぱり芸大生はねえ」と偏見をもたれます…。
一般的な常識とズレているのか不安です。

(24歳女性／芸術学部出身)

まず覚えておいてほしいのは、日本の常識は世界の非常識かもしれないということです。アインシュタインも「常識とは、18歳までに身に付けた偏見のコレクションである」という格言を残していますが、常識とはせいぜい10年から20年の多数派の意見を若い人がコピーしているだけです。ずっと残っていくはずはありません。もしあなたが一般的な常識からズレているのなら、あなたはグローバルな常識に合っているかもしれない。科学史家の山本義隆さんは、教育の目的を「自分の頭で考え、自分の言葉で自分の意見を表明できるようになるため。たったそれだけのこと」と言っています。**自分が納得していればそれでいいと思います。**僕はむしろ、日本の常識に当てはまっている人の方が心配ですね(笑)。

Q8

経済難の続く日本で、
親が私にしてくれたようなサポートを
我が子にあげられるのか心配です。

(26歳男性／人文学部出身)

そもそも、バブル期や高度成長期の「いい時代」は基準になりません。冷静に考えて、経済成長率が7～8%を超える時代が、長く続くはずがありません。今、日本はようやく普通の国になったといえます。かつてのバブル期を体験し、「昔はよかった」というフレーズで、若い人たちを惑わせる人を、僕は「バブルおじさん」と呼んでいます。今の日本はこのバブルおじさんたちが牛耳っている国です。「保険」「貯蓄」「マイホーム」「結婚式」「専業主婦」「定年退職」といった過去の常識を、いかにも「当たり前」の伝統として押し付けてきます。物心ついたときにバブルが崩壊していたみなさんと、バブルを経験した人たちは、まったく別の時代の、それどころか別の国を生きていると言ってもいいでしょう。人口が減っていくのだからGDPが減るのは仕方がない。でも一人当たりのGDPは無関係です。**自分に投資をして、自分が稼げるようになればまったく問題ありません。**自分一人当たりのGDPを上げることに努めましょう。

Q5

このまま独りで一生を終えるのか？
結婚できるのか？ という漠然とした
不安をつねに抱えています。

(35歳男性／人文学部出身)

毎晩、合コンに行きましょう！ そんなことを独りで悩んでいても、女性と付き合えるはずはありません。合コンに行って、騙されて、フラれて、貢がされる。そうした経験を重ねてはじめて、女性との付き合い方がわかってくるのだと思います。チャレンジしてください。

Q6

上司に「教養がない」と叱られます。
教養ってどう身に付けるんですか？

(30歳男性／人文学部出身)

まず考えなければいけないのは「教養」とは何か、ということ。最近、テレビでよく流れているauの桃太郎・金太郎・浦島太郎が出てくるCMがありますよね。あのCMを外国人が見ても、おもしろさがわからないと思うんです。では、なぜ日本で話題になるのかと言えば、日本人のほとんどが、それぞれの物語を知っているからなんです。つまり「教養」というのは、共通のテキストを身に付けること。共通の知識や用語、その文脈や背景をいくらもっているか、ということです。それがコミュニケーションの容易さや豊かさにつながっていくのです。いろいろなことを知っていれば、当然、より多くの人と楽しく話すことができます。どのように身に付けたいのかと言えば、多くの人に会い、たくさんの本を読み、いろいろな場所に行くこと。「**人・本・旅**」が人生を豊かにしてくれる**3本柱であり、その経験すべてが「教養」になりますから。**教養がないことを卑下する必要はありません。人間って一生かかって、これまで人間が築いてきた知の世界の1%も知ることができないでしょう。だから「若いころに、もっと勉強すればよかった」などと、考えるだけ時間の無駄です。そんなことを考える暇があったら、今日から本を読みはじめればいい。どんな年齢の人でも、明日になれば1日分、歳をとる。誰しも、今が一番若いのです。「教養がない」と言われたなら、「そうですね、ありません。今晚から本を読んで教養を身に付けます」と答えて終わりです。

Q3

会社が求めていることと、
自分のやりたいことが違います。
どうすればよいのでしょうか？

(29歳男性／マンガ学部出身)

たとえば、素敵な女性がいて、あなたと付き合っただけで同居をはじめたとします。しかし、いざ同居してみると、彼女は、あなたに今までの生活とは違う暮らし方を求めてくる。加えて、どうやら自分の感性と合っていない部分が多い。そういうときに、あなたはどうしますか？ 一緒に住むことになったのだから、ひたすら我慢して一所懸命尽くすのか、それとも別れて新たな生活をはじめなのか。好きな居場所なのであれば、求められたことに必死でトライしてみるのがよいでしょう。いや、どうも求められたことが自分にはできそうもない、ということでも自分に合った別の居場所を探そうと考えるのもいいと思います。つまり、どちらでもよいのです。入社したら、一生この企業に居続けなければならないということは、同居することになった女性とは、どんなことがあっても一生添い遂げなければいけないと考えることと同じです。それは現実的でしょうか？ 置かれた場所が自分に合っていないければ、どんどん動いていけばいい。あなたが絵を描きたいと思うのであれば、そのような場所を選べばいい。何がしたいかは結局、自分に対する問いかけです。**自身で見定めなければならないのです。**そこに会社という存在は含まれません。人間は死ぬときに、やりたいことをやれたと思えば幸せです。選択肢を広げたいのなら、今晚から勉強して技術を身に付けばよいだけです。後悔している間に歳をとっていきます。

Q4

新卒から入社して10年選手になるのですが、
給料が下がる一方(良くて横ばい)です。

(31歳女性／人文学部出身)

プロ野球選手は、どうして年棒を上げていると思いますか？ 技術を磨き、結果を出しているからです。考え方は同じで、プロ野球も企業も変わらない。つまり、どれだけ自分に投資して、技術を磨き、結果を出していけるかです。給料が下がる一方なのは、**自分に投資をせず成長していないか、もしくは会社が儲かっているためです。**お客が来ていないラーメン屋に勤めても、給料が上がるはずがありません。前者であれば、今夜から勉強して、できないことができるようにすればいい。後者であれば、すぐに見限った次の働き場所を探しましょう。

総評

若者の悩みを聞いて、どう思われましたか？



若い人が不安を抱えているんだということがよくわかりました。若い人の意識は、大人を写す鏡です。だから若者が自信をもっていないということは、大人が自信をもっていないということです。約1500年前の唐の太宗・李世民が、上に立つ者の心得として鏡をもっていないとダメだと説いています。鏡を見て自分の顔をよく見ると。たとえば、上長が明るく楽しく元気な姿を見せていけば、下の者はその姿に憧れたり、自分たちは受けていないおいしい分け前をもらっているんだと思っ昇進をめざすのです。ただ、若い人が悩むのは当たり前です。それでいいのです。今の若い人たちは、そのうち大人になっていくわけですから、自身が大人になったときには、次の世代を不安にさせない、自信に満ちた人間に成長して欲しいですね。人生の豊かさは「喜怒哀楽の総量」にある。悔いのないように生きましょう。

田中圭一

Tanaka Keiichi
京都精華大学マンガ学部教員。サラリーマン兼業マンガ家として、長年活躍。代表作に『ドクター秩父山』（ぶんか社コミックス）、『神韻』（イースト・プレス）、『死ぬかと思ったH』（アスペクト）など。



長く会社員とマンガ家を 両立してきた、

田中圭一が考える、 社会とのつきあい方。

大学卒業後、玩具メーカーに就職。その後も転職を重ねながらギャグマンガ家として活躍してきた京都精華大学マンガ学部教員の田中圭一さん。どんなふうに関わり、自身の制作を続けてきたのか。その極意を教わりました。

りませんでしたが、ほとんどの人が趣味で続けるものだったんですね。そんな時代でしたけど、たまに縁があって大学4年生のときに、ひとつ連載をもつことができたんです。とはいえ、マイナーな雑誌で月6ページの連載。とても食っていけるような原稿料じゃない。なので、なし崩し的に就職をして、平日サラリーマン、土日マンガ家ということになりました。

——どんな就職活動をされたのか、とても興味があります。

田中 法学部だからって、卒業後は六法全書を片手というわけではなく、どちらかというと一般企業の営業職につく人がほとんど。自分もどこかで営業するんだらうなと漠然と思っていたなかで、どうせだったらまったく興味のない分野ではなく、自分の趣味とかぶる分野で営業がやりたいと考えて、おもちゃメーカーに絞りました。そしたら、業界の1番手2番手だったバンダイとタカラから内定をもらって、個人的には2番手のほうが性に合ってるなということ、タカラに入社しました。

——優秀だったんですね。

田中 バブル前後だったので、就職が難しい時期ではなかったこともありますよ。それに、確実に内定をもらう方法をずっと考えていたんです。最初に行ったメーカーの面接では、圧迫面接のようなのをやられちゃっ

サラリーマン漫画家も 悪くない

——マンガ家と会社員の両立、はじめから意識的にされたことですか。田中 私は、大学は法学部の出身なんです。まったく芸術系ではないです。当時はアニメやマンガが好きなおたくのひとりにすぎなくて、またそういった専門学校なんかもあるんです。あと、自分自身が腰をす

て、しどろもどろになって全然ダメだった。そこで考えたのが、自信過剰キアラを演じること。次の会社の面接からは、最初から「営業志望です。私が入れば御社の成績は必ず伸びます！」と断言することにしました。いち学生の分際で（笑）。

——すごい作戦を考えましたね。

田中 何かあるだろうと思われんです。何もないんですけど（笑）。すごい自信家だねと言われたら、「自信のある学生とない学生、どちらが必要ですか！」ってどんだん押しこんでいく。この自信過剰キアラを演じることで、おもしろいように内定がとれました。まあ、景気のいい時代の話ではありますけど。ただ、「バブルの時代に社会人になってウハウハだったでしょ。」なんてよく言われますけど、下っ端の人間はそのバブル景気を支えるために、死ぬほど働かされてましたよ。毎月の営業ノルマもすごきつかった。それでも、自分の好きなおもちゃを売っているというだけで、がんばれた部分がありました。

——趣味を仕事にしたからこそ。

田中 好きなことを仕事にしたら嫌いになるという理屈がありますけど、やっぱりそんなことはなくて。自分が好きでもない、興味もないことでお金のためだからと割りきって働くことの方がつらいと思いますね。今の学生と話していると、ブラック企

業だとか、そういう言葉の影響もあって、労働にあまりいいイメージを抱いてないようですけど、いや、働くことにやり甲斐があったり、仕事で目標を達成することのエクスタシーだってあるわけで、そういう部分があまり伝わってないですね。働いてお金を得るということは、それが会社員でも個人事業主でも、自分次第でうまくやればちゃんとリターンがあるのが資本主義ですから。そこはもう少し信じてほしいと思います。

——田中さんは就職して、転職も何度かされていますけど、会社員かマンガ家、どちらかに絞る決断はなかったのでしょうか。

田中 悪魔の誘惑は何度もありましたよ。だけど、いいタイミングでどっちにもおもしろい仕事が入ってく

るんです。あと、自分自身が腰をすえて働くような性格じゃなかったのか、尻軽な感じで次々とトレンドイな業界へ移っていったんですね。おもちゃ、テレビゲーム、ITのソフトウェア、そして電子出版。そうした仕事で知る業界事情なんかも、マンガに活かすことができた。やっぱり会社員として見聞きしたり経験することって、マンガのネタとしても大事なことです。

SNS時代の マンガ家を考える

——2017年度から大学のカリキュラムが変わると聞きました。

田中 この5年くらいかな。やっぱり紙の雑誌がどんどん売れなくなっで、自分もまわりのマンガ家さんも仕事が減ってきているという実感がありました。実際、通勤電車で見ても、誰も雑誌なんて読んでない。みんながスマートフォンを触ってますよね。マンガ家としてこれは由々しき事態だと。まずは、スマートフォンのおかげで存在感を大きくしていかないと忘れられてしまうと思うので、Twitterのフォロワーを増やすことをひとつの目標にしました。当時、自分のフォロワーが1万人くらいでびたっと止まっていたので、年1万人ずつ増やす計画を立てて、いま4万5千人くらいまでできたかな。——フォロワーって意識すれば増や

せるものなんです。

田中 SNSのおもしろいところは、ネタ画像をひとつ投稿すると1時間で結果が出るんです。あつという間に何千というリツイートまで伸びるものと、数百で止まっちゃうものというところは、即座に自分で分析ができるんですね。自信のあったネタがからきしダメだったり、自信のないネタが話題になったり。投稿する時間帯や曜日によっても反応が違う。こうしたSNSとのつきあい方って、大学の授業でも学生と考えるながら実践することもできるはずですよ。

——感覚的にSNSをやるのではなく、きっちり分析して試行錯誤すれば、ある程度までは必勝法が定められるはずだ。

田中 そうなります。そして、たとえばTwitterのフォロワーを4万5万人まで増やすことで、自分自身がメディアになれるんです。これは、私を精華大学に誘ってくれた編集者の竹熊健太郎さんから教わったことですけど、これからのマンガ家は工場で大量生産してコンビニにパンを並べるのではなく、固定ファンをがっちりつかんだ。町のパン屋さんにならなければ。Twitterやフォロワーを増やしていくにつれて、その感覚が自分でもよくわかってきました。今はSNSなどを利用すれば、直接マンガを読者が売ることができ

Keiichi Tanaka Interview



“社会突破力”のための リコメンド9

自分ひとりで悩む時間ももちろん大事。そんなとき、ちょっとしたヒントや道を指し示してくれる先人に学ぶとよいかも。芸術家、書籍、映画それぞれで学ぶべき手本を推薦いただきました。
イラスト／新井伽那（芸術学部洋画コース 4年生）

芸術家編



アルベルト・ジャコメッティ
(1901-1966)

「そんなものはみな大したことでない。絵画も、彫刻も、デッサンも。……試みること、それが一切だ。名声や富はもちろん、作品の完成さへ度外視して「見ることに徹底した芸術家はセザンヌ以降、彼くらいではないでしょうか。」

ヨーゼフ・ボイス
(1921-1986)

どんな人間も社会変革のために働けるという意味で芸術家だとして、社会彫刻を提唱したボイス。多様化し、拡散しゆく美術と社会の状況をとらえるには、彼の作品と思想をあらためて批判的にふまえておく必要があるでしょう。



書籍編

プラトン
『バイドン—魂の不死について』
岩田靖夫訳 岩波文庫 1998年刊

ソクラテスはアテネ市民として死刑を甘受しました。いわば愛する祖国の内にとどまりながら、真理を求め、その祖国を突破していく道を選んだのです。我が道を往くべく勇気づけられる、美しく小さな対話篇。「いま、ここ」を超えた理想を我が内なるものとするのが、より善き生と社会への第一歩であることも示してくれます。

ノーマン・マルコム
『ワイトゲンシュタイン
—天才哲学者の思い出』
板坂元訳 平凡社ライブラリー 1998年刊

常識破りな思考で、常識を擁護した20世紀最大の哲学者。その生の苛烈さと孤独、その温もりと冷やかさを通じて、自己の信念に殉じること、友を愛することの真実が平明かつコンパクトに描かれます。強く深く絶え間ない努力だけが、平凡さの核心にある非凡さへ、そして社会の核心にある個性へと通じる道であることを教えられます。

映画編

マーク・ロマネク監督
『わたしを離さないで』
2010年

クローン技術で臓器提供のためだけに生み育てられる若者たちの物語。運命に対峙しながら、つかの間の喜びと苦しみを生きているというモチーフは、いつの世、どんな社会でも変わらない人間の条件を問いかけます。そうした条件を自分なりに問い直してみる努力が、社会を突き抜けようとする努力へとそのままつながるはずです。

タル・ベール監督
『ニーチェの馬』
2012年

暴風吹きすさぶ荒野の一軒家。そこに生きる父娘と馬。ミニマルに淡々と回転する日々の暮らしが、やがて……。西欧近代文明の綻びが露わな今、ぜひ読み解いておくべき壮大な寓言を、透徹した映像美が紡ぎ出します。新たな時代への構想力は、これを観た後でなお、どんな世界に生きたいのかを繰り返しイメージすることによって培われるでしょう。

推薦してくれた先生
佐藤一進
1978年生まれ。京都精華大学芸術学部
教員。専門は思想史。著書に『保守の
アポリアを超えて』（NTT出版）など。



アントニオ・ロペス・ガルシア
(1936-)

リアリズムの範疇に収まらないロペス作品の魅力。それは、セザンヌやジャコメッティのように「見る」のみならず、モチーフの傍らに膨大な時間をかけて「佇む」ことを重んじる姿勢にも支えられるものです。

宮沢賢治
『新編 銀河鉄道の夜』
新潮文庫 1989年刊

数多くの映像作品や絵本にもなっている未完の大作。「ほんたうのさいはひ」を探して、彼岸の淵へ、そして此岸へと帰り着く幻想的な旅の美と哀切は、プラトンの『バイドン』にも比肩できます。「未来圏から吹いてくる透明な清潔な風」とらえる感性を、本書で覚醒しましょう。不透明な現代の外側とその先を見通すためにも。

三谷幸喜監督
『ザ・マジックアワー』
2008年

仕事に人生を賭けるとは？ 夢を諦める潮時とは？ 銀幕スターを夢見る売れない俳優が「人生」「仕事」「夢」にまつわる問いを体現する傑作コメディ。直情型で暑苦しい主人公を佐藤浩市が怪演。胸打たれます。それは、時代の空気や周囲の思惑を突破してゆくひとつの端的な姿を直視させられるからなのかもしれません。

紙から電子デバイスに読者が移っていくこと、作家とエンドユーザーが直接つながっていくこと、この2つの流れが逆行することはないと思います。だから、そこを教えることは新しいカリキュラムのひとつの柱になっています。

田中さんご自身が電子出版の会社で働いたり、Webメディアで連載をしたりと、まさにそうした現場にいるので話がとても実践的です。

田中 毎日、Twitterであげていた4コママンガが人気を呼んで、それが単行本化されると何十万部も売れた人もいて、そういうことが今や普通にある時代です。また自身の体験としては、コンビニ雑誌で連載していたマンガが、雑誌ではまるで人気でなかったのに、Webメディアに掲載しはじめるとすぐ話題になったということがあります。自分のマンガがどう評価されるかは、どういう発表の仕方、誰に提供するかということだけでも変わってくるということ。そんなノウハウも伝えていきたいですね。

——マンガを描く技術や発想の話がある一方で、どんな読者にどうやって伝えるかの部分も大事な時代だということですね。

田中 職人的にマンガを描いていく道も否定しませんが、自分がマーケットであり、営業部長でもあるような頭の使い方ができれば、成果が

【田中圭一先生のWeb連載作品】



『ペンと箸 漫画家の好物』

マンガ家の家族への取材を通して、マンガ家の食、人生、制作秘話にまで迫る。現役のマンガ家から往年の巨匠まで、マンガ案内としても秀逸。ぐるなびが運営するサイト「みんなのごはん。」で連載。
「みんなのごはん。」<http://r.gnavi.co.jp/g-interview/>



『うつつヌケ うつつンネルを抜けた人たち』

自身のうつつ病脱出体験とうつつ病経験者への取材をもとにしたドキュメンタリーコミック。電子書籍「文芸カドカワ」で連載。1話ごとに「note」でも購入可。「文芸カドカワ」<http://bunkado.kadokawa.co.jp/>

——昔はいろんな人や会社の手と時間をかけないとできなかったことが、自分ひとりでも実現できる時代。そう思えば、新しい可能性が開けてきますね。そのうえで、これからどう社会と関わっていけばよいと田中さんは考えますか。

田中 マンガ学部の学生に伝えてるのは、とりあえずひとつは内定をとりなさいと。マンガ家ひと筋に決めてしまわなくても、仕事をしながらマンガを描くことだってできるし、内定があることは保険にもなりますよね。だから、内定をとるためのアコギなやり方もこっそり伝授しておきました（笑）。

—— 社会人経験豊富な田中さんが就活を研究すれば、とても実践的な方法論が編み出されてそうですね。その方法は、講義を受ける学生だけのお楽しみというところで、今日はありがとうございました。

——昔はいろんな人や会社の手と時間をかけないとできなかったことが、自分ひとりでも実現できる時代。そう思えば、新しい可能性が開けてきますね。そのうえで、これからどう社会と関わっていけばよいと田中さんは考えますか。

田中 マンガ学部の学生に伝えてるのは、とりあえずひとつは内定をとりなさいと。マンガ家ひと筋に決めてしまわなくても、仕事をしながらマンガを描くことだってできるし、内定があることは保険にもなりますよね。だから、内定をとるためのアコギなやり方もこっそり伝授しておきました（笑）。

——昔はいろんな人や会社の手と時間をかけないとできなかったことが、自分ひとりでも実現できる時代。そう思えば、新しい可能性が開けてきますね。そのうえで、これからどう社会と関わっていけばよいと田中さんは考えますか。

田中 マンガ学部の学生に伝えてるのは、とりあえずひとつは内定をとりなさいと。マンガ家ひと筋に決めてしまわなくても、仕事をしながらマンガを描くことだってできるし、内定があることは保険にもなりますよね。だから、内定をとるためのアコギなやり方もこっそり伝授しておきました（笑）。

2017年、京都精華大学はもつと社会突破力のある大学に。

大学改組の背景

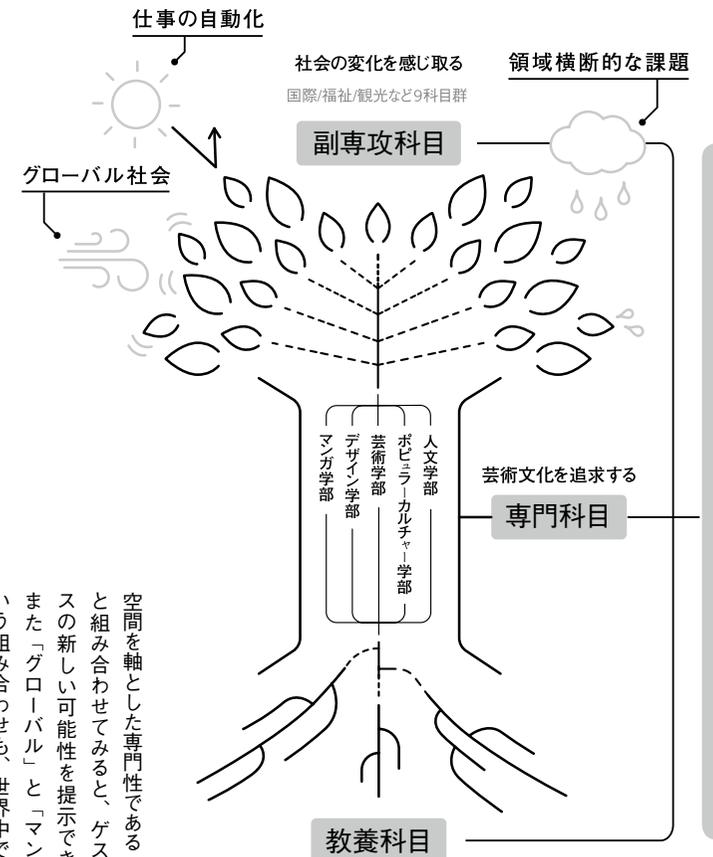
情報技術の発展と急速なグローバル化、少子高齢化や人口分布の変容…私たちの社会はこれまで経験したことのない問題を前に、思考法や価値観を見直す必要に迫られており、その影響は18歳人口の減少や就職難などさまざまなかたちで大学の周辺にも表れています。

今後10〜20年以内にアメリカの仕事のうち、47%が自動化される可能性があるといわれ、世界中で大きな反響を呼びました。主に小売やオフィスワークなど経済の中心を担う職が、近い将来、コンピュータや人工能に代替される可能性が高い反面、クリエイティブやアートのもつ問題解決力や創造力は自動化が難しい能力（つまり人間にしかできない能力）であるとされ、これからの社会における競争力として、芸術や文化の力が大いに期待されています。

このような社会を背景に京都精華大学は「全学部を横断する教養・副専攻科目の設置」「芸術学部の1学科制」「新世代マンガコースの設立」という3つの改革を皮切りに、この先の未来に求められる「社会展開力をもつ芸術文化人」の育成をめざします。

* マイケル・A・オズボーン「The Future of Employment: How Susceptible are Jobs to Computerization?」

京都精華大学 人材育成の概念図



社会展開力のある芸術文化人

芸術学部

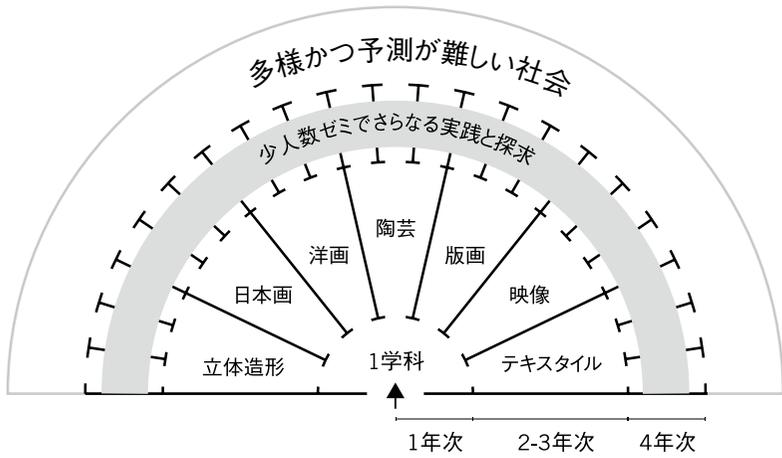
異なるメディア、価値観に触れる 芸術学部1学科制*へ

これまで受験時から洋画、日本画、立体造形、陶芸、テキスタイル、版画、映像という7コースに分かれていた芸術学部は、2017年より領域を横断して学ぶことができる1年

次1学科制を導入します。1年間にわたる広範な素材・技法の試行錯誤を通して、より深い素材の理解と表現の視野を広げることが目的です。また、さまざまな興味関心をもつ学生や教員との対話から異なる価値観に触れることで、ものの見方を顧みる機会を増やし、自身の専門性をより深めたり、新たな専門領域を発見したりすることが期待できます。

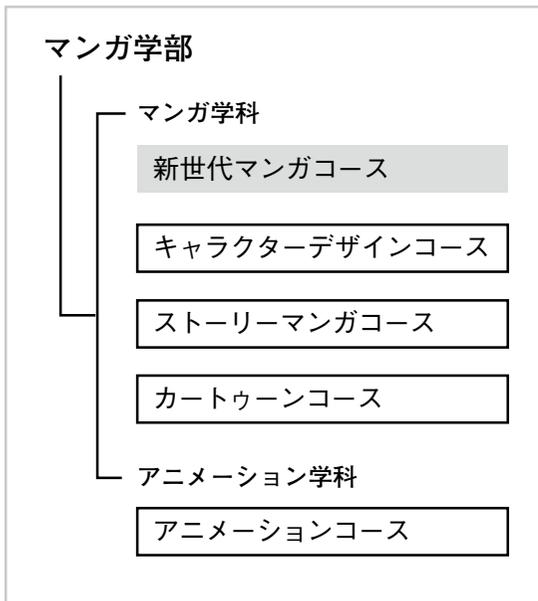
*平成29年4月学部再編予定/構想中

芸術学部1学科制の概念図



1年次からのコース選択を廃止。2年次に関心のある専攻の学びに分かれる。4年次のゼミ制は、コースに所属しながらも、その枠組みを越えた制作・研究に取り組む。

新マンガ学部の構成図



2学科5コース制に再編。マンガプロデュースコース、ギャグマンガコースは、2016年度をもって募集停止。

マンガ学部

時代の変化に対応できる マンガ家を育成 新世代マンガコース*

20代の94%はスマホを所有し、SNSを通してコミュニケーションをする時代。売上の8割をコミックが占める電子書籍市場は2019年に約2900億円規模にのぼると見込まれており、マンガの流通・消費の私たちは前代未聞の変革期を迎えています。

このような背景を受け、2017

年に設置される「新世代マンガコース」は、デジタル環境に適したマンガ表現を開拓できる人材の育成を目標に掲げます。また、描くことに留まらず、自ら作品をプロデュースし、社会に発信していくための、総合的なプレゼンテーション力やマーケティングスキルを養うプログラムを実施。出版社が新人を育てデビューさせるという従来のモデルではなく、個人事業主としてのマンガ家を着実に育てることや、包括的なITリテラシー教育によって、マンガ家だけではなく、企業広報やニュースメディアなどへの進路も開かれると考え

*平成29年4月設置予定

comico PLUSで ギャグマンガコース3年生が連載開始

マンガ・ノベル配信サービスのcomico姉妹アプリ「comico PLUS」(NHN comico)で、マンガ学部ギャグマンガコース3年生 ベテルギウスあかり(ペンネーム)さんの作品『信じるものはお金だけ』が連載を開始しました。本作品は、父と娘が株投資に挑むギャグエッセイマンガ。毎週金曜日に更新されています。



©NHN comico Corp.

写真新世紀2015年度(第38回公募)で 大学院芸術研究科生がグランプリを受賞

写真表現の新たな可能性に挑戦する新人写真家の発掘・育成・支援を目的としたキャンソンの文化支援プロジェクト「写真新世紀2015年度(第38回公募)」において、大学院芸術研究科博士後期課程2年生 迫 鉄平さんの動画作品『Made of Stone』がグランプリを受賞しました。



NEWS & Topics

大学ニュース

在学生や卒業生の活躍、大学の取り組みなど、
京都精華大学の最新情報を紹介します。

ギャラリーフロールにて企画展 「本の空間—ざわめきのたび」開催

ギャラリー企画展「本の空間—ざわめきのたび」が開催されました。この企画展では学生らが建築家であり本学の客員教員でもある藤本 社 氏とのワークショップを通じ、本展のための「本棚」を制作。そこに内田樹氏やみうらじゅん氏ら多彩なゲストにより選ばれた本が並べられ、ギャラリー内をライブラリースペースとして展示しました。



ライブラリースペース「病」 撮影:表 恒匡

ファッションコース2年生による 成果発表会「私のシャツ」を開催

ポピュラーカルチャー学部ファッションコース2年生による、「シャツ」をテーマにした成果発表会が本学サテライトスペース「kara-S」で開催されました。シャツについて、自由に考察・リサーチして制作した服と、ビジュアル化したもの、言語化したもの3点をセットにして展示。多くの人が足を運びました。



京都芸術教育コンソーシアムフォーラムに 学長 竹宮恵子が登壇

学長 竹宮恵子が2015年11月21日に開催された「京都芸術教育コンソーシアムフォーラム」において、パネリストとして登壇しました。このフォーラムは未来像が予測できない時代において、次代を担う子どもたちにどのような力をつける必要があるのかを考え、理念と実践を多くの人々と共有を図るために開催されました。



ライフクリエーションコース卒業生が 「MITSUBISHI CHEMICAL JUNIOR DESIGNER AWARD 2015」で受賞

国内でデザインを学んだ学生の「卒業制作」を対象とするアワード「MITSUBISHI CHEMICAL JUNIOR DESIGNER AWARD 2015」において、ライフクリエーションコース卒業生 堀越真魚さんの作品「Design for living better.」がMITSUBISHI CHEMICAL賞を受賞しました。



「まお式レンガ ~簡単に、強く組めるレンガ~」

「まお式バスケット ~水売りの為の保冷バスケット~」

シリアなど国際情勢についての講演会が 開催されました

人文学部が主催する講演会「いま世界で何が起きているのか?—シリア、ヨーロッパそして日本—」を開催。「シリア問題」「難民」など、中東、ヨーロッパ、そして世界で何が起きているのかを、ジャーナリスト・玉本英子氏(アジアプレス)が取材した最新映像を交えてお話しされました。



学生たちが 期間限定の らくがきカフェを開店

ポピュラーカルチャー学部の授業で学生たちが、京都・丸太町に2016年2月9日~14日までらくがきカフェをオープンしました。食事をしながら店内のいたるところでらくがきを行うことができるユニークなカフェで、音楽ライブやライブペインティングなどを行い、来場者を楽しませていました。



アニメの新時代を考えるセミナーを アニメーション学科が開催

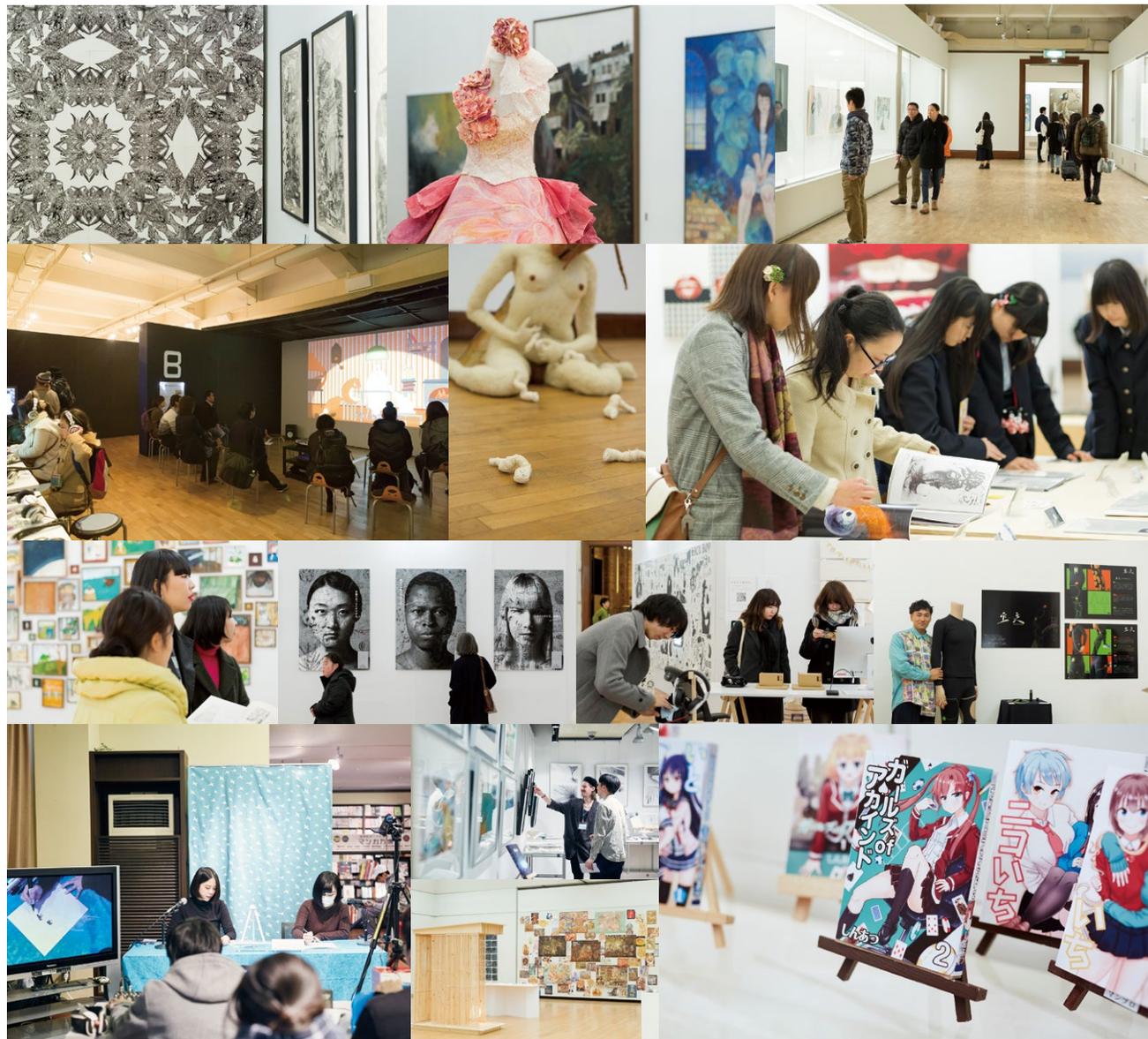
アニメーション学科が主催する「デジタル作画セミナー&セルアニメ新時代研究会」が2015年12月5日に大学内で開催されました。最前線のアニメクリエイター、制作環境を提供するメーカー、人材を育てる大学が集まり、それぞれの立場から次世代のアニメ制作について意見を表明。来場者は200名を超えました。



「日本タイポグラフィ年鑑2016」に グラフィックデザインコース3年生が入選

NPO法人 日本タイポグラフィ協会が文字の表現技術の発展を目的に主催する「日本タイポグラフィ年鑑2016」において、デザイン学部グラフィックデザインコース3年生 坂井美桜さん、坂口ゆかりさんの作品が学生部門で入選。今回の受賞・入選作品は『日本タイポグラフィ年鑑2016』(4月出版予定)に掲載予定です。





2015年度卒業・修了制作展と セイカウィーク2016を開催

2016年2月17日～2月21日、京都市美術館本館及び別館、京都国際マンガミュージアムにおいて、「2015年度 京都精華大学 卒業・修了制作展」を開催し、芸術系学部・大学院に所属する約600名の学生が学びの成果を発表しました。

芸術学部とデザイン学部の作品を展示した京都市美術館本館では、5日間で約8500人が来場しました。会期中には、プロダクトデザイン学科による公開プレゼンテーションや、洋画コースの学生と家族になりきって会場を巡るイベントなどを実施。別館では、大学院2年修了制作展と大学院1年研究発表展が同時開催され、2年生21人と1年生19人の作品を展示しました。

マンガ学部とマンガ研究科の作品を展示した京都国際マンガミュージアムには、約7000人が来場。会場内を巡るスタンブラリーや、竹宮学長をゲストに迎え、会場からのYouTube LIVE配信を行うなど、多彩なイベントで卒業展を盛り上げました。また、卒業・修了制作展の開催にあわせ、「セイカウィーク2016」を実施。京都市内の多くのギャラリなどで在学生や卒業生たちが自身の活動を発信しました。

精華生たちのひとつの通過点ともいえる卒業・修了制作展。確かな答えがないものを追求し、表現してきた経験は、卒業後、それぞれの道を歩むうえで大きな糧となることでしょう。

イベント紹介

岡本清一記念講座 第8回

「戦争化する世界と日本のゆくえ」 概要レポート

講師 西谷修(哲学者)

この講座は、本学の初代学長岡本清一の掲げた建学理念「新しい人類史の展開に対して責任を負い、日本と世界に尽くそうとする人間の形成」の検証と継承を目的に開講され、これまで、小説家の高橋源一郎氏、社会学者の古市憲寿氏、作家の佐藤優氏などが講師を歴任しました。

2015年1月、パリでシャルリー・エブド襲撃事件が起こり、さらに11月にはISのコマンドによる襲撃事件が発生し、

フランス大統領は非常事態宣言を発令。「自由を守る戦い」というかけ声でじまった「テロとの戦争」は、非常事態という形で市民からも自由を奪うことになりました。

いま世界各地で発生するテロ事件と、それに対する先進国による「テロとの戦争」は、アメリカの9・11事件以降にはじまったものです。当時「アフガニスタン」を石器時代にまで戻す」という発言が聞かれたほど、徹底的に空爆が行われました。現在のシリアがまさにこの状況で、荒廃した故国では生きていけず、400万を超える難民が安住の地を求めてヨーロッパに押し寄せ、テロとの戦争」は拡大される。

日本でも2015年9月に安保法案が可決され、事実上、同盟国のために戦争ができることになりました。政府の解釈変更だけで集団的自衛権の行使を容認するという、憲法と民意を無視した行為は、法的なクレーターだと指摘する憲法学者がいる

ほどですが、この変更によっても日本が担うのは、まずは他でもない「テロとの戦争」です。アベノミクスの経済政策では、法人や投資家が富を得る一方、個人は貧しくなり、自己責任とされ、しだいに社会的関係も崩壊します。そこで最後は「日本人」という属性だけが頼りになり、メディアが喧伝する「絆」や「美しい国」の話のもとに、自己犠牲や滅私奉公といった発想が押し付けられます。この状況はいわば、市民が経済的奴隷となり、富者が操る国家のために働く、グローバル時代のガレージ船(奴隷軍船)のような構造です。

今後、日本は「テロとの戦争」に加わり、緊急事態が安全保障であるというレジームに組み込まれていくでしょうが、政治家には自覚が見られませんが、だとすれば市民の立場としてできるのは、少なくとも戦争をしたがる政府をつくらないということだと思います。

○京都精華大学が主催するイベントを紹介。一般の方も聴講、参加が可能です。

【京都精華大学 卒業生ファイル2016】(仮)

本学で学び、卒業後も作家活動を続ける気鋭の若手作家の作品を紹介する展覧会。

【日時】4月18日(月)～5月1日(日)

【場所】京都精華大学ギャラリフール

【問い合わせ先】京都精華大学 学術振興課

ギャラリフール担当
TEL 075-702-5263

【日時】4月26日(金)

● 家人龍太(建設ITジャーナリスト)

● 平沼孝啓(建築家)

● 進藤強(建築家)

● 藤田貴大

● マーティン・ジャンシー(主宰、演劇作家)

● 藤田貴大

【日時】

● 竹宮恵子

● マンガ家、京都精華大学学長

● 吉藤健太郎

● ロボット・コミュニケーター

● 藤田貴大

● マーティン・ジャンシー(主宰、演劇作家)

● 藤田貴大

毎年、さまざまなクリエイターが生まれ、飛び立っていく京都精華大学。社会の第一線で活躍する卒業生と、その場所へ歩んでいる在学生を紹介します。



在学生
中村佳穂
音楽家
人文学部4年生

歩みはじめた在学生

在学中、年間100本のライブをこなし、ライブをプロデュースするなど、大学4年間を音楽家として謳歌してきた中村さんに卒業に際してお話をうかがいました。



中村さんと映像担当の井上理緒奈さんによる学内イベント「箱ノナカノ海」の様子。イベントは2016年1月の9回目をもって終了。過去のゲストに、スチャダラパー・Bose氏、高野寛氏（ともに音楽コース教員）ほか、ゲストと中村さんが共演する企画だった。

音楽活動のルーツは？
2歳からピアノを習ってました。物心ついた時から歌うことと絵を描くことはずっと生活の一部のような感覚でした。
大学生活で一番の思い出を教えてください。
入学後、学外で音楽活動をスタート。そこで出会ったミュージシャンが本当に素晴らしく、「箱ノナカノ海」という学内イベントを映像学科の井上理緒奈と立ち上げ、ゲストを呼ぶようになりました。DIYゆえの難しさはありましたが、必ず誰かが助けてくれました。最終回は来客も200人以上で、当初は想像もつかなかった大きな景色と演奏をつくりあげられたのが一番の思い出ですね！またNHKの子ども向け番組の歌を担当させてもらったのもいい経験です。
今後の目標は？
昨年末の初ワンマンライブでは、ライブ空間のディレクションをすべて自分で行いました。今後も企画から関わり、私にとって本当に気持ちよく歌える環境を探し続けていきたいと思えます。

お仕事依頼先
nakamurakaho.info@gmail.com (いつでもどうぞ)



岡村優太
イラストレーター
デザイン学部
グラフィックデザインコース 2011年卒業

活躍する卒業生

現在、東京に住む岡村さんは、フリーのイラストレーターとして、雑誌やWebなど多方面のメディアで活躍中です。



①イラストの仕事1『月刊MdN』2016年2月号（エムディエヌコーポレーション）表紙カット。②イラストの仕事2『メトロミニッツ』2015年6月号（スターツ出版）表紙カット。③イラストの仕事3『デザインのひきだし』26号（グラフィック社）表紙カット。

「大学で感覚を共有できる友人と出会ったことが一番の宝物です」。そう話す岡村優太さん。グラフィックデザインコースに在籍しながらも、1年生のころから同級生たちとライブイベントを中心にを行うユニットを結成するなど、「デザインよりも絵を描くことの方が多かったとか。当時はイラストレーターをはっきりと志していたというよりは、ただ絵を描きたかった感じです。グラフィックデザインコースも2期目で先輩も少なく、いろんなジャンルの人間がいたので、刺激は多かったですね」。

卒業後、京都にアトリエを構え、絵を描き続けていたところ、同級生のデザイナーから依頼を受けたイラストの魅力が口コミやネットなどで広まり、イラストレーションの仕事が増えていきます。2014年には東京へ引越す。今後は海外での活動も増やしていきたいと言います。独自の着眼点と、親しみやすいプレーンなタッチ、そしてやわらかい表情が魅力の岡村さんのイラスト。今後も目にする機会が増えそうです。



気分転換
コーヒー。朝昼晩、飲んでます。



必需品
面相筆と墨汁、Photoshopを使用しています。面相筆は学生時代から今も京都で買っています。



マイブーム
プロメリアという種類などの植物を集めています。水草も育てていて部屋が緑だらけです。



作業場
2014年から東京を活動の拠点に。自宅兼作業場です。

連絡先
okamurayuta@gmail.com

Webサイト
http://okamurayuta.com/

ご支援くださるみなさまへ～ご寄付のお願い～

様々な支援に関して、ご寄付のご協力をお願いしております。

「学生奨学金制度への支援」、「学生生活活動への支援」、「文化振興活動への支援」、「国際交流活動の支援」、「教育・研究環境の整備事業への支援」より寄付使途を選んでいただき、みなさまのご意向にかなう運用をしています。お申し込みは、銀行窓口、もしくは、インターネット上でのクレジットカード決済にてご寄付いただけます。本学は、寄付者のみなさまが税制上の優遇措置を受けられる、「特定公益増進法人」の認可を受けています。詳細につきましては寄付募集 Web サイト、リーフレットをご覧ください。

●寄付募集 Web サイト

www.kyoto-seika.ac.jp/donate

●お問い合わせ

京都精華大学企画室寄付募集担当 TEL 075-702-5201 FAX /075-702-5391

E-mail:kikaku@kyoto-seika.ac.jp

卒業生の方へ

●京都精華大学の情報は Facebook でも

お知らせしています。

www.facebook.com/KyotoSeikaUniversity

●「木野通信」送付先住所の変更は、

企画室・木野会事務局までご連絡ください。

E-mail:kinokai@kyoto-seika.ac.jp FAX:075-702-5391

訃報 杉本修一さん

本学元理事長の杉本修一さんが3月3日にご逝去されました。享年76歳でした。杉本さんは1968年の大学設立後まもなく、初代学長の岡本清一先生の要請により本学に入職。以来、事務局長、企画室長、法人本部長、理事、専務理事、理事長を歴任され、大学の発展にご尽力いただきました。ここに故人のご功績を偲び、謹んで哀悼の意を表します。

「杉本さんを悼んで」
杉本さんは、大学時代の師である岡本先生の呼びかけにより本学に入職されて以来、岡本先生が思い描く理想の大学を実現するために尽力し続けた人でした。
68年に短大としてはじまった本学は、70年頃から経営安定化のために定員規模を拡大する経営方針をとることになりました。当時まだ若かった杉本さんは、学科増設や資金調達などにおいて中心的な役割を果たし、79年の4年制大学への転換（美術学部の開設）、89年の人文学部開設を経て、現在に至る本学の経営面での基礎を築かれたのです。学科増設や校舎増築に際しては学内教職員からさまざまな意見があり、計画の実行は一筋縄ではいきませんでした。岡本先生の掲げる教育理念を実現するという強い思いで、学内者への説得に努められました。熱く率直な物言いは、人から誤解を受けることも度々ありましたが、すぐさま「言い過ぎたかな」と反省され、仲間を思いやる面もお持ちでした。
ご自身のことを顧みず、京都精華大学にすべてを捧げられた杉本さんのご生前のご功績を偲び、心からご冥福をお祈りいたします。

(赤坂博/理事長)

京都精華大学

学部

人文学部

ポピュラーカルチャー学部

芸術学部

デザイン学部

マンガ学部

大学院

人文学研究科

芸術研究科

デザイン研究科

マンガ研究科

木野通信

KINO PRESS.

木野通信 第66号
2016年3月28日 発行

京都精華大学 入試広報部 広報課

〒606-8588 京都市左京区岩倉木野町137
TEL075-702-5197 www.kyoto-seika.ac.jp